

# 学級活動（１）指導案

2年1組 27名 指導者 橋口 和洋

本実践は、以下の検証を行うものである。

- 本時の話し合い活動において、話し合いボードや発表を類別する「賛成・心配マーク」、学級のキャラクターを生かした「今ここマーク」などの板書を工夫することで、話し合いの柱の論点に沿って、よりよい集団決定を行うことができるのではないか。

## 1 議題

『なかよし大作戦パート①』の計画を立てよう〔共通事項〕（１）－ウ

## 2 子どもの実態

### (1) 子どもの学校生活における実態

- 低学年らしく、元気で、活発であり、様々な学習や生活への興味・関心がとても高い。新しい学級の友達とも、1か月間で仲良くなり、学級の一員として、もっとよい学級にしたいという意欲をもっている。
- 自分の考えをもち、意見をはっきりと言える子どもが多い。また、友達の意見をよく聞き、認めたり、称賛したりする姿も見られる。中には、自分の考えをもつことに時間を要する子どももいるが、考える時間に余裕をもたせたり、グループで話し合ったりする機会を設けることで考えがもてるようになってきている。
- とても素直で、友達と仲良くできるように、互いのことを気に掛けながら学校生活を送ることができている。
- 学級での問題が発生した場合は、教師とともによりよい解決策を模索しようとする態度が身に付いてきている。

### (2) これまでの学級生活の取組

#### これまでに取り組んできた議題

- ・ 1学期の係活動を決めよう
- ・ 1年間、みんなの合言葉となる学級目標を決めよう
- ・ 2年1組のみんなが大好きになるキャラクターを決めよう

本学級では、1学期の話し合い係を司会者グループとして固定化して取り組んできている。子どもは、学級活動だけでなく、各教科等の学習や生活においても、友達と話し合う活動に意欲的に取り組み始めることが多くなってきた。

司会者グループは、朝の会や帰りの会などに、議題集めの呼び掛けを行ったり、今学級で話し合う必要があることを考えたりしながら、議題の選定を担任と共に進めるようにしている。議題決定後、休み時間や昼休みなどに計画委員会を設定し、役割分担をし、提案理由や話し合うこと、話し合い後の実践イメージなどを確認しながら、話し合い活動を進められるように準備を行うようにしている。また、司会者グループや提案者は、担任と確認しながら、必要に応じてアンケート調査を実施し、提案性を高める工夫や自分たちの学級における実態把握をする工夫などを行っている。

実践段階においては、「みんなで決めたことなのだから。」という思いから係活動に一生懸命取り組んだり、学級目標や学級キャラクターに親しみをもって学校生活を送ったりしている姿がよく見られる。みんなで決めたことをみんなで実践するととてもいい気持ちになる満足感を味わえる経験を積み重ねていくことで、学級への所属感や自己有用感を高めていき、より良い学級をめざしていく。

### (3) 話し合い活動における課題やめざす方向

本学級の子どもは、積極的な発言で活発に意見交換をすることができる。また、自分の考えを理由と共に発言することもできる。これまでも友達の意見を聞き、みんなで協力しながら、よりよい学級にしたいという雰囲気が学級全体に出てきている。

議題や提案理由、めあてから抽出されたキーワードを設定するとそのキーワードなどを意識した意見の発表をすることができる。また、発表の際に理由が抜けてしまっても、司会者や教師が「どうしてですか。」と問い返すと意見に対する理由を明確にした発表ができる。話題がそれた場合にも、司会者や教師が、キーワードや議題を確認させることで、話題に沿った話し合いができるようにする。

話し合う際には、「出し合う」「比べる」「決定する」の3段階討議法を、話し合いを通して身に付けることができるようにしていく。そして、教師は司会者と確認を取りながら、話し合いが議題の問題解決に迫ることができるように進めていく。また、合意形成場面に入る前には、めあてやキーワードなどを全員で読み直すことで、確実に現在の話題の確認をできるようにし、キーワードを判断基準として納得いく合意形成を図ることができるようにしていく。その際、少数意見についてもふれることで、話し合い活動への取組の充実感を全員が得られるようにしていきたい。

### 3 議題について

本学級の子どもは、遊ぶことが大好きであるが、昼休みにどんなことをして過ごせばよいのか分からず、何となく時間を過ごしている子どもも少なくない。また、子どもの遊び方についても、少人数による鬼遊びや固定施設遊びなどの遊び方が多く、少人数や個人で昼休みを過ごすことで、満足感を味わっている子どもが多い。

新しい学級になり、友達関係を築くことができているが、まだ学級が仲良く一つとなっているという実感はもてずにいるようである。一方、子どもは、今よりもっと学級の友達と仲良くなりたいたいという願いもっている。1年生のときには、「みんなで遊ぶ日」が設定されており、「学級レクリエーション」を行うことをとても楽しみにしていた子どももいる。今、新学年が始まって、徐々に「みんなで遊ぶ日」を設定して遊びたいという願いをもち始めている。

そこで、本議題は、友達との仲がもっと良くなることをめざし、「なかよし大作戦パート①」の計画を立てることについて話し合いを行う。また、「なかよし大作戦パート①」の後にも「なかよし大作戦」が続くという期待感と自主的に計画を立てたいという思いをもたせることで、今後、学級の中で、自治的活動が更に充実していくことをねらっている。

### 4 指導に当たって

事前指導では、「なかよし大作戦パート①」として、5月22日(火)の昼休みに、みんなでレクリエーションを行うことを知らせておくようにする。そして、この「なかよし大作戦パート①」では、「どんなことをして遊びたいか。」「もっと仲良くなるための『仲よし約束』はどんなことか。」という話し合いの柱に関する質問を行い、事前の実態把握ができるようにする。また、「学級のみならずもっと仲良くなりたいか。」「どんな学級にしていきたいか。」などの学級に関する質問も同時に行い、学級や友達に対する子どもの願いや思いも把握しておく。実態把握したことについては、教師と一緒に司会者グループで分析し考察した上で、話し合いボードを活用して提示し、子どもが学級全体の実態調査の結果を確認することができるようにする。

本時の話し合い活動を行うに当たり、各自の意見をもつことができるように、事前に学級活動ノートに意見を書いておくようにする。その際には、学級活動ノートに教師からの励ましの言葉やアドバイス、アンダーラインや丸付けを行っておくことで、発表することに安心感と自信をもつことができるようにする。話し合いでは、折に触れて、キーワードを復唱させたり、確認したりすることでキーワードに沿った意見の発表ができるようにする。また、発表された意見は、賛成・心配マークで類別し、意見の立場が可視化されるように板書を工夫する。さらに学級キャラクターによる今ここマークを板書に提示することで、話し合いの進行状況が把握できるようにする。教師の話では、事前から運営に努めてきた司会者グループやキーワードを考慮した意見を発言した子ども、少数意見ながらも強い思いをもって発言した子どもなどへ称賛を与えるとともに、事後活動が意欲的に行えるようにしていく。

最後に、事後指導においては、教師も一緒になって「なかよし大作戦パート①」を実践し、みんなで楽しく遊ぶことや話し合っただけで決まったことを実践することなどの良さを味わうことができるようにする。そして、実践後の感想を振り返ることで、「なかよし大作戦」を一度限りにせず、次回へ継続していきたいという意欲を高めることができるようにする。実践中に課題が見つかった場合は、「どうすればもっと仲良く遊ぶことができるか。」と問い直すことで、実践中の課題を見つめ直し、解決策を話し合うことができるように学級会を設定していく。

### 5 第1学年及び第2学年の評価規準

	集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
事前	学級の身の回りの問題に関心をもったり、先生の話をよく聞いて話し合いの準備に取り組もうとしたりしている。	議題についての自分の考えをもち、話し合いの順序など簡単な計画について教師と一緒に考え、準備している。	話し合い活動の準備の仕方や基本的な進め方を理解している。
話し合い	共感的な態度で、最後まで集中して話し合おうとしている。	よりよい学級の生活づくりに向けて教師と一緒に異なる意見の違いを考え、判断し、話し合っている。	
事後	決定したことについて、友達と仲良く準備や計画に取り組もうとしている。	決定したことや役割を考え、決まりを守って仲良く実践している。	決定したことについて、みんなで実践することの大切さや方法について理解している。

6 活動の流れ

	期日	活動内容	教師の手立て	めざす子どもの姿と評価方法く)	
事前の活動	問題発見・選定 4/23 ～ 5/2 5/7	○ 議題を集める。	○ どんな学級にしたいか、どんな友達関係をつくりたいか考えられるようにする。	関 話し合いに向けて関心をもち、生活の中から話し合いたいことを見つけようとする。 (観察) 思 「議題選定の4つの規準」に照らし合わせた助言をもとに、議題を選定しようとする。 (観察)	
		○ 第1回計画委員会を開く。 ・議題を選定する。 ・選定結果のお知らせをする。 ・役割分担をする。	○ もっと仲良くなりたいという願いから、どのような議題に選定すると話し合いがうまくできそうか考えられるように助言する。		
	実施計画の作成	5/8	○ 第2回計画委員会を開く。 ・話し合いの柱を設定する。 ・アンケートを作成する。	○ 場所、時間等の条件を事前に示し、思考の方向性をそろえ、柱を設定する。 ○ 全員の意見を把握し、話し合いを意図的に充実させることができるように、アンケートを検討し作成する。	思 教師と一緒に司会者グループや提案者で、議題名や提案理由、話し合いの柱を考え、話し合いの準備をしている。 (観察) 知 自分の意見をもつ際に、これまでの経験を生かすよさを理解している。 (観察) 思 友達の考えを事前に集約し、友達がどんな意見をもっているか把握している。 (観察)
		5/9	○ 話し合いの柱をお知らせする。 ・議題について、自分の考えをもつ。	○ 提案理由がうまく伝わるよう提案者と提案理由の内容を検討し打ち合わせる。	
		5/10	○ 実態調査をし、実態把握をする。	○ アンケートによる実態把握が可視化できるよう、一覧表にまとめる。	
	取組の共同化	5/14 ～ 5/17	○ 第3回計画委員会を開く。 ・今回の議題に関する自分の考えをもつ。	○ 学級活動ノートに自分の考えを書かせ、話し合いへの意欲を高め、自信と安心感をもたせるようにする。 ○ 板書資料を準備し、司会者グループと最終確認を行う。	思 自分の意見やその理由を考え学級活動ノートに書いている。(ノート) 知 司会者グループのそれぞれの役割や学級会当日に使う学級会グッズ等の準備するものについて理解している。 (観察)
		(本時) 話し合い 5/18	○ みんなで取り組むことや目標達成のために大切な仲よし約束を話し合う。	○ 教師と一緒に司会者グループと話し合い活動を運営するようになる。 ○ キーワードに沿って取組や仲よし約束を決める。	
	事後の活動	実践 5/21 5/22	○ 話し合いで決まった「なかよし大作戦パート①」の準備を行う。	○ 教師と一緒に実践ができるように準備する。	関 自分の役割分担を理解し、意欲的に準備活動を行っている。(観察) 思 自分の役割を理解して、同じ仕事の友達と協力し合いながら、仲良く活動に取り組んでいる。(観察)
			○ 「なかよし大作戦パート①」を実施する。	○ 教師も実践の中に入り、「仲よし約束」を守ることで、みんなが気持ちよく遊べ、もっと仲良くなることができることを実感できるようにする。	
評価 5/22		○ 「なかよし大作戦パート①」を振り返る。  ○ 感想文を読み合ったり、写真を見たりして、自他の良いところを見つけ、「なかよし大作戦」の成果を話し合う。	○ 活動全体を振り返ることができるように、ワークシートを作成し、振り返りの感想を記入させるようにする。	関 活動を振り返り、友達と仲良く取り組めたことを今後の学級生活に生かそうとしている。(観察) 知 友達の役割や努力が分かり、みんなと協力し、仲良く取り組んだら、楽しい活動ができたし、今まで以上に仲良しの友達が増えたことを感じている。(感想文)	

## 7 本時の活動

### (1) 目標

2年1組がもっと仲良くなれるように「なかよし大作戦パート①」の計画を立てる話し合いを行うことができるようにする。

### (2) 評価規準

○ 共感的な態度で、話し合いに進んで取り組もうとしている。

【集団活動や生活への関心・意欲・態度】

○ よりよい学級の生活づくりに向けて考え、判断し、話し合っている。

【集団の一員としての思考・判断・実践】

### (3) 指導に当たって

事前には、4・5月の友達関係や昼休みの過ごし方、仲良くなることなどに関する内容と、話し合いの柱1・2に関する内容について、学級の意見を集約しておくために、実態調査をとり、学級全体の結果を話し合いボードに掲示しておくようにする。

司会者グループについては、教師がいつでも助言等を加えることができるように側に付き、安心感をもって話し合い活動の運営ができるようにする。司会者グループは、学級会の進め方をもとに、話し合い活動を運営し、出された意見を問い直したり、意見をまとめたりする。

提案理由の説明では、提案者が自信をもって提案することができるように、**話し合いボードに提案理由を提示しておく**。そして、自分たちは、4月に楽しく充実した昼休みを過ごしているが、学級全体として一つになった過ごし方はまだできていないという面に視点をおくことができるようにする。そこで、これから2年1組がもっと仲良くなり、みんなが自分のクラスや友達のことを好きになれるようにという視点をもつことができるように提案者からの提案理由の説明を行う。

先生の話では、学級目標の確認を行い、4月の子どもたちの昼休みの過ごし方を写真で提示する。また、実態調査の結果から、焦点化された話し合いができるように「もっと仲良くなるために」「みんなで楽しく」というキーワードを全体で確認できるようにする。

柱1の「何をするか」では、「出し合う」「比べる」「決定する」の3段階討議法に則して、まずは、話し合いボードを活用しながら、各自の意見を出し合っていく。**出された意見については、賛成・心配マークを掲示し、話し合いの流れを可視化するようにする**。話し合いを進める際、司会者グループが困ることのないように、教師の入るタイミングを常に図りながら、称賛や助言をする。また、意見に対し心配な点が出た場合、教師は解決策を話し合うことができるように「今出た心配な意見をどうしたら解決できるかな。」と発問する。司会者グループとの事前の打ち合わせでも、心配な点が出た場合の対応を確認し、司会者の言葉で全体へ問いかけることができるように準備しておく。「決定する」では、学級目標やキーワードにより合う意見を選択することができるよう、各自の意見の出し方に、学級目標やキーワードを取り入れた理由が述べられるように助言する。

柱2の「どんな『仲よし約束』にするか」では、キーワードである「もっと仲良くなれるように」「みんなで楽しめるように」に最重点をおき、どのような態度で臨めばよいか考えるようにする。その際、禁止事項の仲よし約束を決めることを目的とするのではなく、仲良くできるために、楽しめるために、みんなでできそうな、やってみたい「仲よし約束」を決めるようにする。ハイタッチや拍手、握手などの動作を入れることも今回の目的に合う「仲よし約束」として考える。司会者グループと教師が一緒になって、「なかよし大作戦パート①」が楽しみになるような2年1組の「仲よし約束」決定ができるよう、展開していく。

振り返り際には、本時のめあてを基に、話し合いの中で自分や友達の頑張っている姿について発表させ、学級全体で称賛し合うことができるようにする。このように互いを称賛し合うことで、話し合い活動の意義を理解し、良さを味わうことができるようにする。また、教師からも発表の仕方や聞き方がよい子どもや意見をつなぐことができた子ども、さらには、キーワードに沿っていたが少数意見で取り上げられなかった子どもなども称賛する。

最後に、話し合い活動の入門期であり、自治的活動の素地を養う2年生として、今後の学級生活で、「なかよし大作戦」がパート①で終わることなく、改善を徐々に図りながらパート②、パート③と継続して取り組むことができるように意欲付けを行っていく。

(4) 本時の展開

第4回「キラキラナンバー1」学級会 5月18日(金) 司会(平) 副司会(下園) 記録(湯田)		
議 題 『なかよし大作戦パート①』の計画を立てよう		
提案理由 ぼくたちは、2年生になって、新しいクラスになり、友達も新しくなりました。4月も仲良くできたけど、もっと仲良くなれたら、2年1組がもっと楽しくなって、よいクラスになれると思ったから、この議題を提案しました。(尾上)		
話し合いのめあて 「もっと仲良くなれるように、みんなで楽しめる遊びを話し合おう。」		
話し合いの流れ	予想される子どもの意識	○手立て □めざす子どもの姿
1 はじめの言葉 2 歌 3 司会者グループの紹介 4 議題の確かめ 5 提案理由の説明 6 話し合いのめあてと柱の確かめ 7 先生の話	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本当に、もっと仲良くなれたらいいな。</li> <li>・でも、仲良くなれるのかな？大丈夫かな？</li> <li>・みんなで話し合ったら、きっと上手くできるだろう。</li> <li>・今日の話し合いでは、みんながもっと仲良くなれるような意見を発表するぞ。</li> <li>・先生が言うように、みんなで遊んで、仲良くなれたら、もっといいクラスになれそうだな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 気持ちよく話し合い活動に入れるように、学級歌を楽しく元気よく歌えるようにする。</li> <li>○ 提案理由の説明では、話し合いのポイントとなるキーワードが入るようにする。 キーワード「もっと仲良くなれる」「みんなで楽しめる」</li> <li>○ 教師の話の際に、話し合いボードを活用し、本時の議題や話し合いの柱を確認し、話し合いの際に心掛けることなどを指導するようにする。</li> </ul>
8 話し合い (1) みんなで楽しめる遊びは、何をするか。  (2) もっと仲良くなれるように遊ぶための「仲よし約束」を考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドッジボールがしたいです。楽しくて好きだからです。</li> <li>・鬼ごっこがしたいです。簡単にできるからです。</li> <li>・ジグザグジャンケンがいいです。体育の時間にもして、みんなが楽しそうだったからです。</li> <li>・ぼくは、ジグザグジャンケンに賛成です。みんなが笑って遊んでいると、もっと仲良くなれそうだからです。</li> <li>・キーワードに合うのは、○○だね。</li> <li>・○○に決まったね。今度の5月22日が、楽しみだな。</li> <li>・友達をしっかり応援する。</li> <li>・大きな拍手をする。</li> <li>・「大丈夫？」「うまかったね」などふわふわ言葉を使う。</li> <li>・友達とハイタッチをする。</li> <li>・これならみんなで楽しく遊べて、もっと仲良くなれそうだね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 話し合いの運営は、司会者グループが安心感と自信をもって行うことができるように、教師が臨機応変に助言を行う。</li> <li>○ 話し合いの流れが可視化できるように、意見に対して「賛成・心配マーク」を掲示する。</li> <li>○ 話し合いが今この話題にあるかが分かりやすくなるように、「今ここマーク」を掲示する。</li> <li>○ 「心配点」の「解決策」を話し合うことで、全員が問題解決に向けた考えをもつことができるようにする。</li> <li>○ 小グループによる話し合いや、学級活動ノートでの事前の意見からの意図的な指名を行い、話し合いが円滑に行えるようにする。</li> <li>関 自分と同じ考えにうなずいている。 (観察)</li> <li>関 全員にとってよりよいものを選んだり、友達の意見に新たなアイデアを付け加えて、より価値のある意見にしたりしている。 (観察)</li> </ul>
9 決まったことの確認 10 話し合いの振り返り 11 先生の話 12 おわりの言葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてが達成できたよ。</li> <li>・友達の意見はとても良かったな。次は私も友達みたいな意見を言いたいな。</li> <li>・みんなで決めたことが、しっかりできたら、もっといい2年1組になれるそうだな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関 話し合い活動における友達の意見や聞く態度の良さを見付け称賛している。 (観察)</li> <li>○ 先生の話では、具体的な発言や話し合いの仕方について、称賛を与え、次回の話し合い活動や事後実践へ意欲がもてるようにする。</li> </ul>

